

令和7年3月31日発行

青葉福まちだより

第22号（年一回発行） 発行者：青葉地区社会福祉協議会・青葉地区福祉のまち推進センター
所在地：札幌市厚別区青葉町4丁目10-27



令和7年1月19日 青葉自治連主催 もちつき大会（写真提供 青葉まちセン）

青葉地区社会福祉協議会会長 土田 義也

2024年は、働き方改革関連法により、ドライバーの時間外労働時間の上限規制が設けられることになり、我々の日常生活で、路線バス、タクシーの減便、流通の遅延が発生、土木工事の工期の遅れ、資材の高騰、新幹線の札幌延伸時期の遅延など、様々な社会問題が発生しました。

2025年には、日本の人口は5人に1人が75歳以上となり、いわゆる「団塊の世代」が後期高齢者になり社会に大きな影響を及ぼすことなのです。働き手の不足により、医療や福祉といった分野にも深刻な問題を引き起こす可能性があります。

少子高齢化の人口形態は今後も続き、2030年には少子化による労働人口の減少や人口全体の減少が一段と顕著になり、経済成長の鈍化、地方衰退、社会構造の変化を引き起こすと言われています。現在の日本は限界集落どころか国家存亡に直面していると言われています。

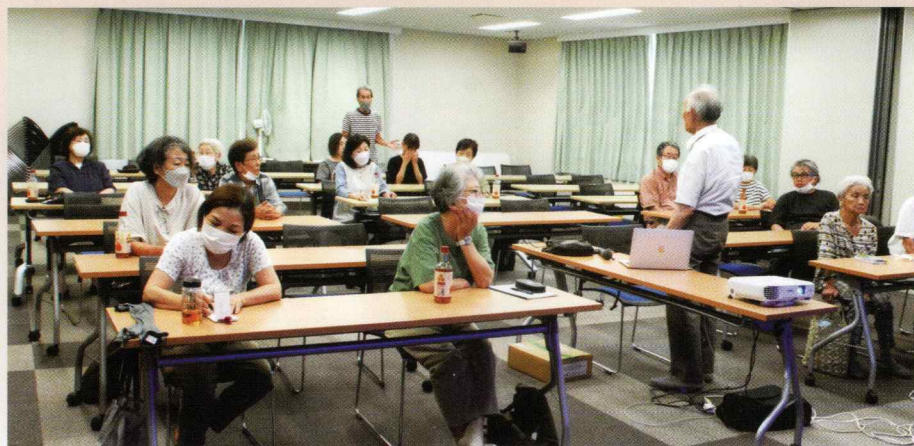
日々日本を取りまく世界情勢が一段と厳しくなる中、この前例のない長寿国が今後生き残るためには、少子化を鈍化させ正常な人口形態に戻し、将来を見据えた恒久的な社会保障を確立するために政治家も国民も一体となってその実現に向けて努力することです。そしてこの問題に目処を付けるのも我々世代の責務であり、限られた歳入の中政府も大変でしょうが、その使い方の優先順位をしっかりと実現可能な課題から手を付けるべきである。政治家の皆さんも見識をもって、党派を超えてこの問題に真剣に向き合ってくれることを切に望むところです。

福まち講座

1 「生きものの世界を垣間見た」

令和6年9月7日（土）青葉会館において、NPO法人 ラブタージャパン 日本猛禽類研究機構 理事長の阿部 學氏をお招きして、「生きものの世界を垣間見た」をテーマとして講義を開催しました。

阿部氏は環境省 希少野生動物 種 保護推進員でもあり、鷹や鷲などの猛禽類の肢に標識を取り付け、その生態を効率的かつ正確に調査することにより、野生鳥類との共存に向けた取り組みについての貴重な講話をお聞きしました。



2 健康講座「カーリンコン大会」

令和6年11月9日（土）青葉会館において、北海道カーリンコン協会の協力により、地域では初めてとなるカーリンコン大会を開催しました。

カーリンコンは、3人1組で対戦し、円盤状のディスクを投げ、どれだけの的に近づくかを競い合うもので、室内の会議室などでも気軽に行える競技です。

当日は、6組12人が参加して行われ、最初はルールやディスクの投げ方を教わりながら、2回戦を行い、楽しい時間を過ごしました。



カーリング大会



川口 眞奈美代表によるボイストレーニング



3 健康講座「なつうたで健康維持を」

特定営利法人 ケアラーズ北海道 理事長の大橋 二三子様のご提案を受け、令和7年2月17日（月）青葉会館において、なつうたsapporoi主宰の川口 眞奈美様により『なつうたで健康維持』を開催しました。当日は、25名の参加により、特に口腔内の健康のため、発声練習を交えながらの発声の仕方などを教わり、数曲の懐かしい歌を合唱しました。

また、スタッフとして参加された落語家の林家とんでん平さんによる飛び入りの小噺などがあり、笑いとともに、たのしい時間を過ごしました。

地域での支え合いに向けた取り組み

青葉地区では、平成28年に、「いつまでも住みつづけたい青葉、安全で安心できる青葉、健やかで賑わいのある笑顔あふれる青葉」を10年後のまちづくりビジョンの一つとして掲げ、活動を進めてきたところです。

策定からほぼ8年が経過した現在、今後の日本は、「人口の減少と少子高齢化」「介護保険サービスを担う人材の不足」等が加速し、高齢者福祉を取り巻く状況が更に厳しい状況となることが想定されております。また、わたしたちの住む青葉地区に目を転じると、この8年間の人口構成等の状況を比較すると、下表に示すように、「高齢者のうち、75歳以上の後期高齢者の急増」及び「高齢者の独居化（一人暮らし）の進行」などの傾向が窺えます。

このため、「高いところの窓拭きや電球交換」「家具などの移動」「庭木の剪定や草取り」など、介護保険サービスの対象とはならない、日常生活上の様々な『困りごと』が増え、地域においてお互いに支え合う必要性が、今後益々高まるものと思われます。

青葉地区社会福祉協議会（福祉のまち推進センター）として、これらの『困りごと』などについて、各町内会・自治会、自治連合会、民生児童委員協議会、福祉支援団体、行政機関など様々な関係機関との連携による課題の共有化や課題解決に向けた取り組みを進めることとしました。

<令和6年度の取り組み>

- 各町内会・自治会への説明会の開催（令和6年7月7日）
 - ・ビジョン策定時から人口動態の変化等を説明し、取り組みの必要性を共有化
 - ・各町内会・自治会での『困りごと』についてのアンケートの実施
- アンケートの集計結果の共有化及び具体的な事例の意見交換会
（市営住宅団地 8自治会、その他4町内会で別途開催）

A まちづくりビジョン策定時（平成28年4月1日現在）

世帯数	総人口	年少人口	生産人口	高齢人口	高齢内訳		平均年齢
		0～14	15～64	65以上	65～74	75以上	
4,923	8,876	702	4,384	3,790	1,996	1,794	54.4
	構成比	7.9%	49.4%	42.7%	52.7%	47.3%	

B 現在（令和6年4月1日現在） 8年後

世帯数	総人口	年少人口	生産人口	高齢人口	高齢内訳		平均年齢
		0～14	15～64	65以上	65～74	75以上	
5,101	8,622	652	4,045	3,925	1,495	2,430	57.0
	構成比	7.6%	46.9%	45.5%	38.1%	61.9%	

比較（B-A）

世帯数	人口	年少人口	生産人口	高齢人口	高齢内訳		平均年齢
		0～14	15～64	65以上	65～74	75以上	
178	-254	-50	-339	135	-581	636	2.6
	構成比	-0.3%	-2.5%	2.8%	-14.6%	14.6%	

左表の比較について

- 世帯数が増加しているが人口が減少しており高齢者複数世帯の独居化が進行傾向
- 高齢人口全体は若干増であるが、後期高齢者（75歳以上）が急増

独居高齢者の増及び後期高齢者増により介護サービス制度以外の生活上より身近な「困りごと」が多様化しつつ増加することが想定される

- その他
 - ・戸建て用地の建替え、更地化の増加傾向
 - ・市営住宅の空き室が増加傾向
（市住の全管理戸数 2,159戸）
 - ・副都心タワーマンション（220戸）が完売
【旧市住Ⅰ団地内】

なお、この取り組みの模様については、『厚別区社協だより』（第99号 2025年3月）にも「住民相互の支え合い」として掲載されております。

令和6年度の福祉除雪の状況

令和6年度の申請世帯は、前年度より1世帯減少の47世帯であり、このうち新規申請は7世帯となっております。

47世帯のうち26世帯が地域の協力員16名に担っていただいております、残る21世帯については、協力企業1社により実施しております。

町内会別の福祉除雪の状況は下表のとおりです。

令和6年度 福祉除雪について

町内会	申請世帯数					R 6 除雪協力員				備考
	前年度	6 年度				地域協力員		企業委託		
	a	b	c	d	c + d	人数	担当 世帯	企業数	担当 世帯	
	申請数	未申請	継続	新規	申請 総数					
わかば	22	2	20	3	23	7	11	1	12	
白 樺	2	0	2	1	3	0	0		3	
紅葉会	20	4	16	1	17	7	13		4	
13町内会	4	2	2	2	4	2	2		2	
計	48	8	40	7	47	16	26	1	21	

注）本表は令和6年11月13日現在における数値です、

新型コロナ感染防止対策事業（マスクの配布）

令和6年度は、コロナ禍の5年目を迎えるとともに、1類から5類とインフルエンザと同様の取り扱いになって2年が経過したものの、未だ予断を許されない状況が続いています。このため今年度も新型コロナなど感染予防対策の一環として、北海道共同募金会の助成金を受け、70歳以上の一人暮らし974人を対象に、青葉地区民生委員児童委協議会の協力により不織性マスク（1組25枚入り）を配布しました。

編集後記

青葉福まちだよりの第22号をお届けします。

青葉地区社会福祉協議会（福まち）事務局一同 千葉 山本(廣)

所在地：札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 電話＆FAX：011-893-2055